2023.6.22
藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会　講演会

「包括崩壊？！その時ケアマネは！」

合同会社地域包括ケアステーション
大磯町西部地域包括支援センター
センター長　岩本　朋子

自己紹介

岩本　朋子（いわもと　ともこ）

合同会社地域包括ケアステーション
大磯町西部地域包括支援センター　センター長
主任介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士

特別養護老人ホームケアワーカー、介護老人保健施設支援相談員、居宅介護支援事業所ケアマネジャーを経て、平成１８年社会福祉法人大磯町社会福祉協議会に入職。入職後、地域包括支援センター担当となり、平成23年より同センター・センター長に就任。令和３年まで１５年間地域包括支援センター業務に従事した。
令和３年８月、居宅介護支援事業所「くらしの相談ステーションおおいそ」を開設。管理者として従事。
令和５年４月大磯町西部地域包括支援センターを町より受託。

大磯町の概要

- 面積　１７．２３平方㎞
- 総人口　３１，４６１人
- 高齢者人口　１０，９１１人
- 高齢化率　３４．６８％
（令和４年１月１日現在）

- 「湘南」という名称の発祥の地（諸説ありますが…）
- １８８５年日本初の海水浴場が開かれたところ
- 神奈川県中央南部に位置し、丘陵部が６５％を占める一方、海岸沿いに流れる暖流の影響で温暖な気候
- 町議会議員の女性の割合が高い（１３名中６名が女性）

2

大磯町の特徴・特性

- 町の６５％を丘陵部が占めている
- 気候は温暖
- 地元を大事にしている
- 医師会の先生方との距離が非常に近い
- 総合病院とのコンタクトが取りやすい
- 医師と介護従事者が協働する場面が多い
- 大磯で活動している介護支援専門員の３分の１が主任介護支援専門員

3

特徴的な課題

1．システム化への取り組み

⇒ 医師と介護従事者の距離感は非常に近いが、システム化されたものではなく、個人のネットワーク（人脈）によるものが多い

⇒ 地域住民を加えた形でのシステムの未整備

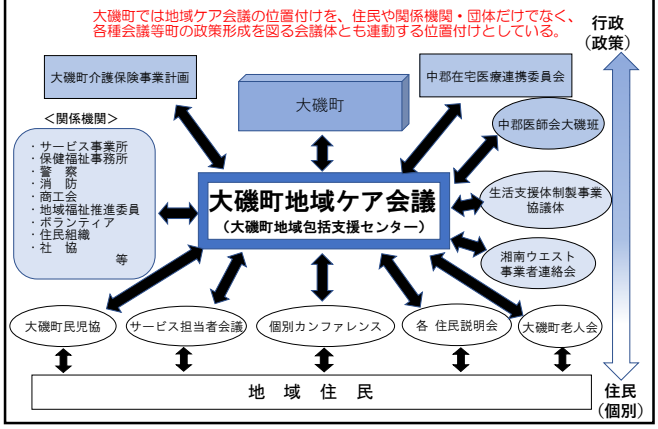
2．統合への取り組み

⇒ 規範的統合の未確立

⇒ 地域住民を巻き込んだ形での統合の未整備

⇒ それぞれの「役割の明確化」が図れていない

大磯町地域ケア会議の位置付け（図）



協議体での情報提供例（住民目線での情報提供）

～地域ケア会議での意見を協議体へ反映～

作成：木内健太郎

そんな中・・・令和３年３月

何よりありがたかったのは、
ネットワークの支え

そしてケアマネの力！！

事業所の紹介

くらしの相談ステーション おおいそ

■法人名は「合同会社地域包括ケアステーション」
■令和３年８月設立
■もともと地域包括支援センターに勤務していた６名で構成
■現在、主任介護支援専門員３名、社会福祉士３名、保健師１名、看護師１名で従事（資格重複有）
■サービス提供地域は、大磯町・二宮町・平塚市・中井町・秦野市小田原市
■特徴は、内科クリニックの２階に事務所を設けているので、医師との繋がりが強い
■介護保険認定前からの相談が多く、総合相談としての動きが多い

くらしの保健室“安養”とは？

暮らしの保健室“安養”

■いち民間中小企業で実施の保健室事業
■行政等からの補助金一切なし
■公共施設等の活用はなく、町内にある“お寺”で実施（お寺の本堂の半地下にあるフリースペースで実施）
■フリースペースには、ご年配の方々から町外からの観光客、下校時の小・中・高校生などが同じ空間に存在！
■予約等も一切なく、フリースペースに来て何もしなくても良い！相談なくただこの空間を共有して帰られる方もいます
■異職種の面々が集まる場！！

くらしの保健室“安養”に込めた想い

“相談”をもっと身近なものに！！

専門職の面々も集まる
“夜の保健室”
職域や職場の垣根を越えて、本気で
未来を語る場所となっています！！

住民の方々が気軽に呟ける場所を…
という願いを表現した保健室です

暮らしの保健室“安養”が神奈川新聞に載りました！

暮らしの保健室“安養”には、毎回新しい相談者が来てくださいます。

前述のパンフレットを見てきてくださる方やお寺の前に立てた看板を見て何気なく寄っていただく方もいらっしゃいます。

自分たちで出来る事を
一歩ずつ！！

令和5年度からの大磯町地域包括支援センター

東部部地域包括支援センター
町立福祉センターさざれ石内

委託者　社会福祉法人伸生会

西部地域包括支援センター
横溝千鶴子記念障害福祉センター内

委託者　合同会社地域包括
ケアステーション

２０２３年５月１２日
タウンニュースに掲載されました。

第４土曜日の
“夜の保健室”の際、
取材を受けました。
“夜の保健室”には住民の皆さん、ボランティア団体、ケアマネ、包括、介護事業所、リハ職などが集まります。

相談からつながる地域づくりへ・・・

この２年間で見えたもの・そして目指すこと

- ピンチの時の頼り、そしてありがたかったのは、地域のネットワーク(町民、多職種多機関、行政)
  →平時からの繋がりが有事を救ってくれる
- 地元「大磯」のケアマネジャーの温かさ、そして強さ
- 「相談」が地域をつなぐこと。相談を身近に感じていただく場づくりの大切さ
  →相談は必ずしも公的機関でなくてもできる

ともに支えあえる(町民もや多職種も)町づくりの一助になれることを目指して！！

ご清聴、ありがとうございました！